

日本－韓国 数学教育ミニワークショップを開催しました

1月11日(木)に附属図書館にて『日本－韓国 数学教育ミニワークショップ』を開催しました。KOFAC (Korea Foundation for the Advancement of Science & Creativity) 事業の一環として、韓国においてベストティーチャーと認定された小・中・高等学校の教員、大学教員、教育省関係者の合計22名が来日され、研究交流をしました。本学の細川友秀学長による開会の挨拶の後、本学数学科の黒田恭史教授より「生理学データを用いた数学教育研究の新たな潮流」についての講演、続いて、韓国の4名の先生方より、教育実践の事例報告が行われました。午後は、本学大学院数学教育専修院生の葛城元氏より「図形教育におけるオリガミクスの教育的効果」と題して実演を交えた数学教材の紹介が行われました。

質疑応答では、「韓国では計算の習熟などの時間を削減する方向に今後動いていくがそれは生理学的データの観点から妥当と判断されるか」、「生理学データを教師教育に活用する可能性はあるのか」など活発な意見交換がなされました。また休憩時間には、日本の算数・数学の教科書を興味深く閲覧されるなど、有意義なワークショップとなりました。



全体集合写真



質疑応答で生理学データの説明場面



オリガミによる実演場面